

ひょうご SDGs ネットワーク設立趣意書

【奇跡の星、地球】

わたしたちは、この青く美しい地球の恵沢を受けて生きています。地球の歴史をひも解くと、46億年という時の経過の中で、宇宙空間に漂うチリやガスが引き付けあって小さな微惑星となり、続いて繰り返される微惑星、小惑星の衝突により誕生しました。

この地球は太陽系からの距離、大気と水を引き止める質量、大気の構成など、どの条件一つ欠けても、生命の誕生は起こりえませんでした。これは、一つの機械式時計の部品をすべてプールにばらまき、それがプールの水の動きで時計に組みあがるくらいの確率にも例えられます。この奇跡の星、豊かな森と海に包まれた青い星は、人類をはじめ多くの生物がその生命の輝きを謳歌しています。

【多様な問題による持続可能の危機】

人類はおおよそ1万年前に農耕という文明を手に入れ、その後人類にとって有益な開発を続けてきました。ここに来てほんの200年余りの間に、化石燃料の使用などによって大気中に温室効果ガスを急速に排出し、結果として起こった気候変動により健康、食糧、水の供給、海面上昇など、生態系への様々かつ甚大な被害をもたらしつつあります。

また、気候変動以外にも、人類が作り上げた社会で、深刻な飢餓、経済や性差・教育・国などあらゆる不平等・格差、争い、貧困、自然破壊など、この奇跡の星の開発を持続させることを不可能とする諸課題も生まれています。

【地球規模での取り組み】

この地球の危機を救うため、2015年9月の国連サミットでSDGsが採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するための目標を掲げました。

この星の持続的な開発を可能にするために、17の目標と169のターゲットが決められています。

私たちは、この目標とターゲットを尊重し、課題を解決するためのシステムを社会に実装していかなばなりません。

SDGsは、国連や各国政府、行政機関のみが行うものではなく、地球上のすべての企業や市民も取り組むべき指針です。

そして、その取り組みで最も重要な一つが、持続可能な開発の中で「誰一人取り残さない」という理念です。

【日本のSDGsへの取り組み】

日本では2016年5月に政府が「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を立ち上げ、12月には実施指針を決定し、日本のSDGsに対する姿勢を表してきました。

2019年年初に発表した「SDGsアクションプラン2019」では3つの柱を立てました。1.SDGs

と連動する「society5.0」の推進

2.SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境にやさしい魅力的なまちづくり

3.SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

【ひょうごSDGsネットワークについて】

日本社会が社会システムにSDGsをどのように実装していくかは、これからです。

人口減、高齢化、ジェンダーなど日本の課題と同じ課題を持つ兵庫県をSDGsを原動力として、地方創生を図りながら解決に導くため、SDGsの理念、目指すものを広く兵庫県民に啓発し、実装に向けた意識形成を図り、行動に移すことを目的とし、このひょうごSDGsネットワークを設立しました。

その名の通り、SDGsを推進するためには、行政、民間企業、学術研究、市民などのステークホルダーがネットワーク化され、一体となって推進できることが求められます。また各セクター内のネットワークも重要です。

学び合う場づくりや、一緒に活動する方々のネットワーク（参加者の多様な経験・知見を相互に結びつけること）で、持続可能な社会の構築に向けた新たな取り組みを創出し、イノベーションを起こすことができるのではないかと考えております。

まずは、一人一人がSDGs達成に向けた取り組みを行えるように、主に、市民セクターに向けて、カードゲームなどを通じて、啓発活動を行うことを計画しています。

趣旨にご賛同いただけるみなさまのご参画をお願い申し上げます。

ひょうごSDGsネットワーク

令和元年9月25日

発起人氏名

林 弘行

大嶋 俊英

谷水 雄一

林山 祐子